

論文タイトル： Risks of thromboembolism associated with hormonal contraceptives related to body mass.

論文著者： Sugiura K, 他

論文掲載誌： Thrombosis Research. 137: 11-16.

平成 24 年（2012 年）「国民健康・栄養調査」に参加した全国 10 歳以上 60 歳未満の女性約 6 千名の方々と、2004 年 4 月から 2013 年 12 月までに独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）に経口避妊薬使用に関連する血栓塞栓症だと報告された症例 300 名の方々のデータを用いて、BMI や年齢と、血栓塞栓症リスクとの関連を調べた研究です。

国民健康・栄養調査に参加した健康な 10 歳以上 60 歳未満の女性の BMI をもとに、年齢階級ごとに、やせ（BMI<18.5）、標準（ $18.5 \leq \text{BMI} < 25$ ）、肥満（ $\text{BMI} \geq 25$ ）の割合を算出しました。同様に、PMDA の医薬品副作用データベースに経口避妊薬に関連する血栓塞栓症を発症したと報告された方々の BMI をもとに、やせ、標準、肥満の割合を算出し比較しました。次に、血栓塞栓症が起きた部位（静脈または動脈）別に、血栓塞栓症でない健康な方々のやせ・肥満の割合と血栓塞栓症を発症された方々のやせ・肥満の割合を年齢の影響を調整して比較しました。

その結果、健康な方々と比べて、経口避妊薬に関連する静脈血栓塞栓症を発症した方々の中では肥満者の割合が統計学的に有意に高いことが明らかになりました。この傾向は、静脈血栓塞栓症と動脈血栓塞栓症を合わせた全血栓塞栓症の方々でも同様でした。動脈血栓塞栓症の方々も同様に、健康な方々と比較して肥満割合が高い傾向にありましたが、統計学的に有意な差ではありませんでした。